

所員

〔専任教員〕

渡辺 信一郎 WATANABE Shinichiro

役職：所長

専門：中国楽制史、中国楽制史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHE Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

田鍬 智志 TAKAWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

齋藤 桂 SAITO Kei

役職：講師

専門：音楽学・日本音楽史

〔客員教授〕

金剛 永謹 KONGŌ Hisanori

〔非常勤講師〕

藺田 郁 SONODA Iku

担当：特別研究員

専門：近代芸能史

出口 実紀 DEGUCHI Miki

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・民俗音楽

光平 有希 MITSUHIRA Yuki

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・音楽療法

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

〔非常勤嘱託員〕

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi

担当：司書

〔異動のお知らせ〕

2021年3月、退職

渡辺 信一郎（所長）

2022年4月より新任

細川 周平（所長）

〔客員研究員〕

遠藤 美奈 ENDO Mina

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：日系社会における仏教音楽（讃仏歌）の
伝播と実践に関する研究

受入教員：武内恵美子

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：近代日本音楽の音声資料に関する研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：人形浄瑠璃文楽の近世後期上演記録デー
タベース更新に係る追補的資料研究

受入教員：竹内有一

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：〈羽衣〉囃子総譜の解説と音曲伝書を通
じた技法研究

受入教員：藤田隆則

多田 純一 TADA Junichi

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：近代日本における西洋音楽受容と演奏様

式および形態に関する研究

受入教員：齋藤桂

丹羽 幸江 NIWA Yukie

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：室町期の謡の旋律法の研究と能の復曲活動

受入教員：藤田隆則

平間 充子 HIRAMA Mitsuko

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：古代の宮廷音楽に関する日中比較—日本の内教坊の活動とレパートリーを中心に—

受入教員：武内恵美子

福本 康之 FUKUMOTO Yasuyuki

2021年4月1日～2022年3月31日

研究課題：聲明および賛美歌との関係から見る近現代日本仏教界における洋楽受容の実態

受入教員：武内恵美子

上野 正章 UENO Masaaki

2022年3月1日～2022年3月31日

研究課題：近代日本における古典音楽の独学についての比較研究—雅楽と謡曲を中心に—

受入教員：田鍬智志

〔共同研究員〕

のべ66名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告1」に掲載。

2021年度 委託研究 その1

テーマ：『邦楽の友』の記事一覧の作成とデータベース化

委託先：竹内直

担当者：田鍬智志

本研究センター所蔵の『邦楽の友』の記事一覧の作成とそのデータベース作成に向けた作業を共同研究員の竹内直氏に委託した。

『邦楽の友』は1955年（昭和30年）に創刊され、現在まで刊行されている邦楽専門雑誌である。『邦楽の友』は、発刊当時より邦楽の様々なジャンルを取り

扱っており、各種エッセイ、特集記事、日本音楽研究者による連載、論考、演奏会評、さらには時期によるが、邦楽ラジオ番組の放送情報なども掲載されている。刊行期間の長さを考えれば、『邦楽の友』に収録されている情報は、第二次世界大戦後に創刊された邦楽専門誌のなかでも資料的価値が高いとみることができる。しかしながら、これまで本誌に収録された記事をまとめたデータベースは見当たらず、国立国会図書館やCiNiiのオンライン検索を用いても、『邦楽の友』所収の記事を検出することはできないのが現状であった。

こうした状況を踏まえた上で行った本委託研究では、昭和年間に刊行された『邦楽の友』に収録された記事の一覧作成作業を行った。作業は、まず目次をもとに記事一覧を作り、そのあとで雑誌本体の記載内容との照合作業も可能な限り行った。これは、目次に記載された情報が誤っていることがあるため行った確認作業である。対象とした時期の記事項目は、計11826件となった。ただし、本研究センターに所蔵のない、1巻、5-7号（3冊）、19巻、219-222号（4冊）は、データに加えられていないことを申し添えておきたい。成果物は、エクセルファイル形式にまとめられた状態で、2022年3月末に納品された。

なお、今後は、収録記事本体との再照合さらに、多少の修正、増補を行ったうえで、記事一覧のインターネット公開に向けた作業を予定している。この作業については、令和4年の委託研究として再度竹内直氏に委託し実現する運びである。

2021年度 委託研究 その3

テーマ：故井上重夫家旧蔵レコードのデジタル化

委託先：大西秀紀（本学客員研究員）

担当者：竹内有一

（研究概要）2021年5月から日本伝統音楽研究センターで寄贈受け入れの準備を進めているSPレコードコレクション「故井上重夫家旧蔵レコード」（仮称）のデジタル化および書誌情報化を委託した。

（研究の背景、目的、特色）「故井上重夫家旧蔵レコー

ド」は、京都市南区久世の井上家が所蔵していたもので、敷地内の蔵を整理中に見つかった SP レコード約 80 枚である。これらはすべて 10 インチの国内盤で、内容は 大正 10 年頃から昭和初期にかけて発売された、俚謡、俗曲、書生節、浪花節、萬歳、映画説明等の大衆芸能であり、数枚の謡曲やジャズソングなども含まれている。レコードの発売時期などから、当時リアルタイムで収集されたものが今日まで残ったと考えられる。いずれもこれまでの伝音センター所蔵 SP レコードとは傾向を異にするものが多く、近代庶民の娯楽文化の傾向を知る上でも貴重な音声資料であり、デジタル化の意義は大きい。

(成果の公開方法) 音源データは mp3 形式で作成、保存され、タイトル等一覧はエクセル形式で作成されている。音源・一覧とも、伝音センター web での公開を予定している。その公開時期は未定であるが、レコードタイトル等については伝音センター図書室へ問い合わせいただければ、適宜回答させていただく。

2021 年度 委託研究 その 4

テーマ：故山田全一氏蔵雅楽管楽器製作技術に関する資料目録作成

委託先：出口実紀（雅楽研究者、日本伝統音楽研究センター特別研究員）

担当者：竹内有一

(研究概要) 2020 年度から伝音センターで寄贈受け入れの準備を進めている故山田全一氏蔵の雅楽管楽器製作技術に関する資料（楽器の製作用具・原材料・製作部品）について、資料の全容を把握し、近い将来の情報公開、資料公開に備えるための目録を委託によって作成した。

(研究の背景、目的、特色) 故山田全一氏（雅号：山田籟全、2019 年 12 月逝去）は、国の選定保存技術「雅楽管楽器製作技術」保持者であるが、後継者がいなかったため、生前の 2017 年に文化庁芸能部門、京都府文化財保護課、京都市文化財保護課が対応にあたり、製作用具の文化財指定により技術の保存に寄与が可能かどうか、検討が進められていた。氏の没後、製

作用具および所蔵の楽器類の処遇について、ご遺族が京都市の北村政策監に相談され、文化芸術企画課が対応にあたり、文化庁、京都府文化財保護課、京都市文化財保護課等での情報共有を経て、京都市立芸術大学（伝音センター）が寄贈をうけることとなり（楽器の一部は購入）、製作用具を中心に大学へ移送作業を進めている。今後、寄贈資料の保全、公開、活用のためには目録作成が必要であり、また、同資料の永続的な保全・活用をはかるため、2022 年度に京都市の文化財指定を受ける準備を進めており、指定を受ける際には、この目録の一部を参考資料として提出する予定である。

目録に掲載される寄贈資料は、楽器の製作用具、楽器の原材料、製作された楽器部品など、数千点におよぶとみられる。目録の作成は、資料の仮分類、名称の特定、寸法の計測、用途の考察、写真撮影、撮影データの整理などの研究作業にもとづいて、それらのデータを適宜記述するものである。特に用具の名称や用途の考証に際しては、雅楽器に関する専門的知識が必須であるため、同分野の専門家である出口実紀氏を当該研究の委託先とした。

(成果の公開方法) 作成した目録は、当面は資料台帳として、資料整理、データベース登録、登録番号付与等の業務において使用する。目録に記載された情報のうち、公開の必要性が高いものについては、寄贈資料現物の公開とあわせて、伝音センター web サイト等で公開する予定である。

(竹内有一)

図書室

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展観などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）
- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・ 本学の教職員（非常勤を含む）／学生
- ・ 調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

- ・ 開室日時 毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時
- ・ 休室日 月・火・土・日曜日、
「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外の方の利用を休止しています。再開時期等、最新情報は web サイトでご確認ください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・ 資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・ 本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・ 複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・ 当室所蔵の CD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

- ・ 毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

○その他

- ・ 本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・ 一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。
- ・ 2021 年度の図書室について
新型コロナウイルス感染拡大防止による措置として閉室および利用制限を行いました。
4 月 28 日（水）～ 5 月 7 日（金） 臨時休室
5 月 11 日（水）～ 通常時間での開室
学内者向けに通常時間での開室を再開しました。カ

ウンターに飛沫防止のビニールシートを設置、換気を徹底するとともに、利用者の方々にはマスクの着用、手指消毒、体温測定、図書室利用票の記入など引き続き感染防止対策をおこなっています。

学外の方にはご利用を休止しているため、ご迷惑をおかけしております。学外の方のご利用の再開につきましては、ホームページにてお知らせいたしますのでご確認ください。

展観

会場：新研究棟 7 階展観ブース

2021 年度は休止いたしました。